http://hokkaido-poland.com/pole.html

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第２３号　　1993. 8. 4

発　行
北海道ポーランド文化協会
〒060　札幌市中央区南２東２
河合楽器製作所北海道支社内
電話　011-231-8661
FAX　011-221-4936

第２０回例会のご案内

ポ文協コンサートⅡ

Piano Joint Concert

ポーランドの代表的作曲家

日　時　　８月２０日（金）　午後６時３０分
場　所　　ザ・ルーテル　ホール
（大通り西６仲通り）

高岡美保

K.シマノフスキ／20のマズルカop.50より
ホ短調No.1 ロ長調No.2
F.ショパン／ノクターン 嬰ヘ長調op.15-2
華麗なる大ポロネーズ
変ホ長調op.22

宮木恵子

F.ショパン／ノクターン
変ロ短調op.9-1 変ホ長調op.9-2
幻想即興曲 嬰ハ短調op.66
スケルツオ ロ短調op.20

小野由恵

パデルフスキ／演奏会用ユモレスクop.14より
古風なメヌエット
幻想曲 クラコウヴィアク
F.ショパン／幻想曲 ヘ短調op.49

ポーランドの代表的作曲家であるショパン、シマノフスキ、パデレフスキの作品を集めて、第二回目のポ文協コンサートを開催します。北海道ショパン学生ピアノコンクール入賞、或いはポーランド・ワルシャワ留学から帰られた３人のフレッシュなピアニストによるピアノ・ジョイントコンサートです。演奏者はいずれもポ文協の会員です。みなさまのご声援をお願いします。

コンサートのチケットは２５００円です。担当運営委員の大竹貞さん（６１１－２０３３）まで電話を下さればチケットをお送りしますので、当日会場で清算して下さい。多数の会員のご来聴をお待ちしています。

音楽と私

ヨーランタ・ルジンスカ

在札ポーランド人に聞く ― 今回はヨーランタ・ルジンスカさんにお会いしました。

ヨーランタ、愛称ヨラさんは御主人が北大に留学されたので一緒に来日しました。6才になるヤンくんと三人で花川におすまいです。

花川に住んで四年になりますが、住み始めた頃は回りの人々に好奇の目で見られてとても嫌でした。外に出たくないと思いました。特に記憶に残っているのは、自転車に乗った男の人が行き過ぎてからも物珍しげに後ろを振り返ってヨラさんを見ていてとうとう転倒したことでした。

ヤンくんは今保育園に通っていますが、友だちもできてまわりにとけこみ問題もなくくらしています。

ただ困ったことは、ヤンくんの使う日本語がきたない言葉だということです。ヨラさんは、きれいな日本語を話してほしいと思っています。ヤンくんがはなす日本語が通じないことがあると苦笑していました。

今住んでいる所は、静かで緑が多くて、ポーランドに似ているので好きです。ここに住むことができてとても良かったと思っているそうです。

ヨラさんには主に音楽について話して頂きました。以下はその要約です。

◆ワルシャワ大学合唱団に入って

私はワルシャワ大学で地質学を専攻した古生物学者ですが、音楽が大好きで、在学中二年間ワルシャワ大学合唱団に入団してコーラスをやっていました。この合唱団は大変レベルが高くて厳しいオーディションにパスしなければ入団できません。殆どのメンバーが音楽を専門に勉強した人や、ワルシャワ大学で音楽学を勉強している人たちです。

ワルシャワ大学にはムズィコロギアという音楽の学部があります。ここを出た人達は音楽評論家などになるのですが、合唱団に多く入っていました。

人数は百人以上です。女性は黒い絹の長いドレスを着ます。そのドレスはそれぞれ異なった色と形の秋の木の葉の図柄が描かれた、とても美しいもので、それを着て唄うのは素晴らしいことでした。

曲目は第一にバッハが多く、次がビバルディ、シマノフスキーそして四番目にイギリスの古い教会音楽です。特に難しいのがシマノフスキーでした。演奏はオーケストラと一緒のことが多く、いつも沢山の人が聴きに来きてくれました。

私は大学在学中二年間しか合唱団にいませんでした。というのは一年生の時に学生結婚をし、入団後二年たって子供ができたのでやめたのです。

合唱の練習はとてもきつくて、何時間も立ったままでぶっ続けに発声練習です。それもおなかに力を入れてですから、おなかの赤ちゃんのために良くありません。それでフィルハーモニアと共演のコンサートに出たのを最後にやめました。コーラスは、さなのでやめたことは大変残念です。

◆ピアノと私

私は六才の時から家でピアノのレッスンを受けていました。小学校に入るのと同時にミュージックスクールにも入って音楽を学びました。ミュージックスクールというのは普通の学校の傍ら通う音楽だけの学校で、公立ですから授業料はかかりません。七才から十五才までピアノを勉強し他に小学校から大学まで十二年間ずっとコーラスも続けました。

五才の時に受けた音楽テストで良い耳と才能を持っているといわれたので、両親は、ピアノを習わせてできればプロにしたいと考えたようです。あくまで希望としてですが。

学校の他にマリア・ビッティホフスカ先生という年をとった有名なピアニストに個人レッスンを受けることになりました。でもあまりの厳しさに私はピアノが嫌いになってしまいました。その先生は優秀な生徒を八人選んでショパン協会の発表会に出演させ、順位を決めるということを年二回しました。私も八人の中に入ってはいましたが、ピアノをひくのがいやでした。八人のうち二人はプロのピアニストになりました。もっと練習が楽しかったらやめずに続けたと思います。

父は私が六才の時から、オペラの席

を年間予約してくれましたので、ずっと毎週木曜日にはオペラを聴きに行っていました。ですからオペラは今も好きですし、コーラスも、それとピアノも聴くのは好きです。ピアノはやめて以来、ただの一度もひいていません。

◆ビッティホフスカ先生のこと

先生は練習がうまくいかないとたたいたりするような厳しい方でしたが、大切なことを教えて下さったのだと、今になって気がつきました。

それは教え方や仕事に対する意欲と責任感です。先生はその二つとも強い方でした。それはとても大切なことで、私は先生を通してそのことを学んだし、又音楽のことがよくわるようになったのも先生のお陰だと思っています。音楽の深さや意味を教えてもらったし、今も音楽が好きなのは彼女のお陰です。

めったに人をほめない先生でしたからたまに（習っている間に五回くらい）ほめられると、それはもう本当にうれしかったものです。

もし私の子どもが良い耳をしていたら、多分ビッティホフスカ先生のような厳しい先生につけたと思います。

私の子ども時代は、音楽、新体操、水泳、スペイン語といろいろなことを習っていたので、遊んでいる子がうらやましかったけれど、今はそれも良かったと思っています。

今残念に思っていることは、日本に来てからは主婦として家庭にいるということです。夫は研究に打ち込んでいますので、その姿をみているとうらやましいです。私もポーランドに戻ったらまた大学で、学者として学問を続けるつもりです。そして音楽は趣味として楽しみたいと思っています。

＜文責　斎田＞

ラファウ・ウシチェフスキ

11月5日(金)7:00 共済ホール

1974年生まれ。18歳の天才ピアニスト出現にポーランド中が沸いています。
はたして日本でもブームをおこすでしょうか。

後援　北海道ポーランド文化協会

お知らせ

ショパン音楽祭

日本ショパン協会北海道支部
設立２０周年記念

日時　１９９３年９月２０日（月）午後６時
会場　札幌市教育文化会館大ホール
主催　日本ショパン協会北海道支部
後援　北海道新聞社
　　駐日ポーランド人民共和国大使館

当日はヘンリク・リプシッツ大使がこの音楽祭のために来札される予定です。

1部／ショパンメドレー

2部／連弾と2台のピアノ

3部／10台のピアノ　編曲／木村　純

¥3,500

ポーランド・ポスター100年展

グラフィック・デザインの奔流

8月14日（土）より9月12日（日）まで

北海道立帯広美術館（帯広市緑ヶ丘2緑ヶ丘公園）

フランチシェク・スタロヴィェイスキ　1962年

ワルシャワ国立ポスター美術館の所蔵品約150点により、今世紀のポーランドのポスターの歴史を通観します。

アンジェイ・ワイダで有名なポーランド映画に〝ポーランド派〟という呼称があるように、ポーランドのポスターも〝ポーランド派〟と呼ばれグラフィック・デザイン界のみならず、戦後の世界の現代美術の中で高く評価されてきました。そればかりではなく、ポーランド・ポスターは一九〇〇年頃のポーランド近代美術の誕生と共に発展してきた近代デザイン運動のなかで生み出されたアール・ヌーヴォー、アール・デコ時代の豊かな遺産を持っています。こうした歴史の中で育まれ、戦後の政治体制との特殊な絡みの中で成立してくる鋭い現実批判と知的なウィットやシンボリックな手法が総合され、世界のグラフィック・デザインの中で特別にユニークな表現が確立されていくのです。一般にポーランド美術全体が社会主義リアリズムから離れていくのは一九五〇年代の後半のことといわれていますが、ポスターもやはりこの頃から独自の様式を打ち立て、以降六〇年代にかけて〝ポーランド派〟と呼ばれるようになるのです。そして、七〇、八〇年代にはシンボリックな手法がより一層強調され、特異で強烈な表現はとどまるところを知りません。ポーランド・ポスターのこうした世界的な成功を支えたものに有名な国際ポスター・ビエンナーレ（一九六六年開始）などがありますが、六八年に開館した世界で初めてのポスター美術館（ワルシャワ国立美術館分館）の活動も忘れる事ができません。今回は、このポスター美術館の所蔵品より今世紀初頭から今日までの作品を厳選し、ポーランド・ポスターの歴史をたどろうとする、本格的な展覧会です。

（有楽町西武ポーランド・ポスター百年展　ちらしより転載）

＊＊

POLE原稿募集

機関誌POLEへ会員のみなさまからの投稿をお待ちしています。題材や原稿の長短は全く自由です。POLEを会員の交流の場としてご利用下さい。

運営委員会での相談の結果「会員短信」といったような原稿を積極的に頂こうということになりました。名簿からランダムに選んだ会員へ編集委員から短い文章を頂くための往復ハガキが届くことになりますが、それに当たった方はどうかご協力下さいますようお願いします。

（編集委員会）

「ポーレ」編集委員会
斎田道子・清水保子
吉田　宏
［連絡先］621-1738（斎田）

POLE 第 23 号(1993.8.4)目次

〈第 20 回例会〉「ポーランドの代表的作曲家の作品～ピアノジョイントコンサート」(1993.8.20)のお知らせ　1
ヨーランタ・ルジンスカ「音楽と私」…………………………………………………………　2
〈後援〉ラフアウ・ウシチェフスキ・ピアノリサイタル(1993.11.5)、日本ショパン協会北海道支部設立 20 周年記念「ショパン音楽祭」(1993.9.20)のお知らせ…………………………………………………　3
ポーランド・ポスター100 年展(道立帯広美術館 1993.8.14～9.12)のお知らせ…………………………　4